

2021（令和3）年度事業報告（2020年10月1日～2021年9月30日）

**A. はじめに**

**B. 人材育成（人づくり）事業**

1. 勉強会「てらこや」
2. 講師・ファシリテーター派遣
3. ニュースレター「かわらばん」

**C. 研究（知づくり）事業**

1. 国際協力事業に関する知見の公表
2. 研究者との連携

**D. 実践（場づくり）事業**

1. 国際協力
2. 地域保健医療派遣
3. 他 NGO などとの連携

**E. 事務局業務**

1. 事務所
2. 運営
3. 広報
4. 会員

**F. 会計（決算書も参照）**

## A. はじめに

コロナ禍の影響で開始を延期して2020年9月から実施しているJICAの草の根プロジェクトは、約半年オンラインミーティングのみで継続してきたが、2021年3月に事務局長が渡航し成果を上げることができた。コロナ禍でも進捗のあるプロジェクトの1つとしてJICAからの評価を得ている。「てらこや」、「かわらばん」も定着している。

AHIとの協働で開始したHelping Health Workers Learn出版は、次年度に持ち越しとなった。

## B. 人材育成（人づくり）事業

### 1. 勉強会「てらこや」開催（別表参照）

例年どおり年6回開催した。参加人数増加（目標20人/回）を目指し、平均21人となった。開催方法は前年度と同様オンライン開催となった。終了後には当法人ウェブサイトとニュースレター上で報告記事を掲載した。今年度より会員特典の運用（会費とまとめて1回払い）を開始した。また、6回中2回はAHIならびに「新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！連絡会」と連携しての開催となった。

### 2. 講師・ファシリテーター派遣

以下のとおり派遣した。

- ・愛知県作業療法士会現職者研修への講師派遣（2020年10月、石本）
- ・日本福祉大学国際福祉開発学部への講師派遣（2020年10月～、樋口・石本）
- ・名古屋市立大学人文社会学部への講師派遣（2020年6月、石本）

### 3. ニュースレター「かわらばん」発行

例年どおり1月（7号）と7月（8号）に各4ページで発行した。発行部数は各号100部、うち会員および関係者（過去の講師、連携団体、業務依頼先など）約70件に発送した。

### 4. Helping Health Workers Learn 翻訳プロジェクト

アジア保健研修所と共同で立ち上げたHelping Health Workers Learnの翻訳プロジェクト（ほんプロ）はボランティアによる翻訳作業が進行中である。2021年1月末に翻訳案が出揃い、9月末時点では監修チームによる監修作業が進行中である。当初の予定であった本年度内の出版はできなかった。

## C. 研究（知づくり）事業

### 1. 国際協力事業に関する知見の公表

JICA草の根プロジェクトについては知見の公表には至らなかったが、プロジェクトのC/Pとの共同研究が進行中である。

### 2. 研究者との連携

2021年8月より、国際リハビリテーション研究会「外国人リハ事例集積プロジェクト」に参加し、オンラインワークショップや分析フレームワークとデータベース作成に協力した。名古屋市立大学看護学研究科教員、大学院生との共同研究が進行中である。

### 3. 研究課の活動

今年度は研究員登録の希望者はいなかった。昨年取得した研究機関番号に加えて、文部科学省から研究機関の指定を受ける方法について検討したが、研究費配分等の理由で申請には至らなかった。

## D. 実践（場づくり）事業

### 1. 国際協力（JICA 草の根技術協力事業の実施）

【パーツ大学における「住民ニーズに基づく保健実践」のための教育強化プロジェクト】（以下、草の根プロジェクト）について、2021年3月～4月に石本事務局長が現地に渡航し、カウンターパートであるパーツ大学教員とともに活動方法の見直し、現地業務補助員の採用、教材整備を実施した。また、今後の専門家派遣に向けて、オンデマンド教材を活用した授業支援と、学生の現状調査を検討した。

### 2. 地域保健医療支援

昨年度に引き続き、愛知国際病院に医師を派遣した（月2回）。

### 3. 他 NGO などとの連携

- ・NGO-JICA 協議会は参加しなかった。
- ・AHI と協力し、ほんプロ監修作業を進めたほか、「新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！連絡会」に賛同団体として登録した。
- ・名古屋市立大学看護学部の臨地実習「多文化健康支援看護学実習」の受入を内諾した。（2022年度より準備、2025年度より正式受入）

## E. 事務局業務

### 1. 事務所

昨年度同様、法人登録住所である名古屋市瑞穂区田辺通 1-22-2 の1室を事務所として賃借した。（当初の予定であった改修工事は延期されたため、通年で借用した。）賃貸契約条件は昨年度と同じく、家賃（光熱費込み）21,600円（消費税込）、共有の電話・インターネット料金をBiPH負担とした。

### 2. 運営

理事会：3回開催した。（10月13日（第11回）はオンライン開催、4月12日と8月5日はメール開催）

事務局：事務局は前年度に引き続き、樋口倫代と石本馨2名で運営した。樋口は水曜日（事務局）、土曜日（愛知国際病院への派遣）の勤務であった。石本は月・水・木・金の勤務で、広報、渉外、経理、庶務など事務局業務全般を担当した。

外部委託：決算・納税に関する相談先を、年度途中からNPO法人ボランティアネイバーズに変更した。uminサイト維持は、引き続きシステム開発会社プロテックに依頼しているが、今年度は料金の発生する大幅修正はしなかった。

### 3. 広報

ニュースレター「BiPHかわらばん」を予定通り年2回発行した。法人ウェブサイトとFBページを維持したほか、英文サイトと草の根プロジェクト専用FBページを開設した。サイト修正の後半部分は発注しなかった。メールマガジンは勉強会広報やプロジェクト報告等を中心に不定期で配信した。

#### 4. 会員

2021年9月末で個人正会員36人（うち終身会員4人）、個人賛助会員3人、団体会員2団体となった。新規入会は7件、退会1件であった。3年以上の会費未納による社員資格喪失該当者はいなかった。

また、12名（会員10名、非会員2名）より合計572,000円の寄付をいただいた。ニュースレターを活用して、入会済みの会員に活動報告をするとともに、引き続きサポートと参加をお願いした。

#### F. 会計

2021年9月末の収入5,238,824円（前年比535.5%増）、支出総額3,690,682円（法人税401,200円を含む；前年比221.5%増）で、いずれも前年度を大きく上回った。今年度収支差額は1,548,142円であった。昨年度との違いは、収入増の要因は、国際病院派遣増加、持続化給付金受給、JICAからの事業収入による。支出増については、業務増加による事務局人件費の増加、草の根事業での東ティモール出張経費と消耗品購入、東ティモール水害対応で他団体への寄付などが主な要因である。

今年度末の純資産合計は8,868,534円となる。

別表：勉強会

回	日時	内容	担当	参加人数
1	2020/11/27	海外事業キックオフ！東ティモールにおける「住民ニーズに基づく保健実践」のための教育プロジェクト	BiPH 事務局	23 会員 14 非会員 9
2	2021/1/22	患者の立場から医療を考える場「ペイシェントサロン」の挑戦	石原八重子 (ペイシェントサロン協会/Fabry NEXT)	9 会員 6 非会員 3
3	2021/3/27	日本に暮らす海外ルーツの人達の健康と課題 — 知立市の多文化子育て支援活動を通して—	坂本真理子 (愛知医科大学)	21 会員 10 非会員 11
4	2021/5/28	ロックダウンと豪雨被害の東ティモールで ～UNPAZ-BiPH プロジェクト出張報告～	BiPH 事務局	23 会員 12 非会員 4 学生 7
5	2021/8/20	新型コロナワクチンと医薬品特許（薬について考えるシリーズ No. 3）	稲場雅紀 (アフリカ日本協議会)	24 会員 8 非会員 8 学生 8
6	2021/9/24	外国人住民の新型コロナ感染から見えてくる壁	橋本智恵 (愛知県立大学大学院)	28 会員 9 非会員 18 学生 1